

令和4年度指定管理運営業務評価票

施設名称：大阪府民の森ほりご園地	指定管理者：公益財団法人大阪YMCA	指定期間：平成30年4月1日～令和5年3月31日	所管課：環境農林水産部みどり推進室みどり企画課
------------------	--------------------	--------------------------	-------------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価		施設所管課の評価		評価委員会の 指摘・提言	
			評価 S～C		評価 S～C		
I 提案の 履行状況に関する項目	(1) 施設の設置目的及び管理運営方針	①家庭教育、学校教育、社会教育、企業教育の一環として、持続可能な循環型社会の形成を推進 ②施設を取り巻くすべての環境を最大限活かし、かつての日本の生活文化を体験的に学ぶ場の提供 ③施設内の田畑における育成、収穫、調理などによる食育学習と地域の伝統や郷土文化を学ぶ場の提供 ④「府民の森園地管理必携」の充実・活用	① 利用者に薪や炭などの自然エネルギーを使って昔ながらの生活を体験していただき、現代の便利だが地球に負荷をかけている生活と対比していただき、環境や循環型社会への気付きを学んでいる。 ② 現代生活ではほとんど使わなくなった、ナタやマッチ、クラフト時の肥後守等を使用し、正しく使用すれば安全で昔からの身近な生活必需品であったことを共に学んでいる。 ③ 土壌改良や種、苗の植え付けから収穫までの過程や農家の働き等を植え付け体験や収穫体験時に説明をし、スーパー等で手軽に買えるがその裏には多くの労力があることを学んでいただいている。また、田植え前の田んぼでの泥んこ遊び体験ではなかなか普段ではできない体験をしていただき、土（泥）の感触を体験できる場を提供している。 ④ 利用者の安心・安全を確保するため、職員・パート全員が意識を持ち常時施設点検・充実に努め管理運営を適切に行っている。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。  ・環境教育等を実践する施設という設置目的を理解し、学びの場を提供していることは評価できる。	A	
	(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果	①誰でもいつでも利用できる施設として運営を実施 ②予約手続きにおける平等性の確保 ③高齢者、障がい者等への配慮	① 子どもから高齢者、障がいのある方誰もが気軽に利用できる施設として運営している。最低限の利用時のルールはあるが、利用者のニーズにできる限り答え、気持ちよく利用していただくよう配慮している。 ② 個人は6か月前、団体は1年前からの予約受付をしている。継続利用団体について予約がない場合、連絡をさせていただいたり、予約時に余裕をもって活動していただけるよう配慮している。個人利用で2名という少人数であっても予約を受け付けている。 ③ 障がいのある方の利用時には介助者を含め利用料減免を行っている。高齢者や障がいのある方については、宿泊棟までの自家用車の乗り入れを許可し、利用宿泊棟もできる限り一番近い宿泊棟を案内している。また、高齢者グループのハイカーがこられた場合、展示棟の開放や状況にもよるがキャンプ場の一時利用も許可している。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。  ・利用者のニーズにできる限り対応し、柔軟に取り組んでいることは評価できる。	A	
	(3) 利用者の増加を図る具体的手法及び方策	①学校関係団体などを対象とした平日利用者の獲得 ②閑散期（12月～2月）のイベント実施による冬期の顧客獲得 ③宿泊棟における年間稼働率の向上 ④インターネットサイトの活用、フェイスブックの充実によるリアルタイムな情報提供  (利用者数の目標値 年間来園者数 27,000人以上) ■H30年度利用者数 19,142人 ■R01年度利用者数 16,534人 ■R02年度利用者数 12,904人 ■R03年度利用者数 16,069人	① 7月に泉南市、阪南市、田尻町、岬町の小学校に、12月に泉南市の幼稚園にデイキャンプと利用案内のチラシを配布した。公益協働事業部合同のチラシの作成を行い、堺市南区の小学校を中心に配布を行った。5月には泉南市の中学校が野外での人間関係トレーニング授業の一環で利用され指導も行った。 ② 4月の春祭りはコロナの影響により実施できなかったが、里山まつりに関しては従来のものより形を変え、ピザ作り体験・うどん作り体験の体験デイ（完全事前予約制）として開催した。合わせて37組144名の予約があったが当日の天候不順により28組96名の参加者となった。12月の餅つき大会は今年度は2日開催予定で現在両日とも予約が埋まった。11月・12月・1月・3月に泉南市教育委員会との協働で日帰りキャンプを実施する。(11月31名、12月19名)1月には1泊キャンプも予定しており現在15名の予約がある。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。  ・R4.4～12の来園者数は15,678人であり、コロナ前の年間来園者数を上回る見込み。引き続き、来園者の増加に向け、情報発信やイベントの工夫に努められたい。  ・平日においては、家族層の宿泊利用の増加は困難であるため、小学校の遠足や体験学習等による活用が増えるような取組みに期待する。  R3.4～12 17% (土日 56%) R4.4～12 20% (土日 70%)	A	・もともと年間来園者数の目標値の設定が高いため、目標を上回ることは難しいと思われるが、今年度は、コロナ前の来園者数が見込まれる。引き続き、来園者増加に向け、運営の手法を工夫されたい。

			<p>③ 電話予約が減少傾向にあり、インターネット予約が増加をしている。ピザ、手打ちうどん体験等をセットにした提案や日帰り体験を売り出し、顧客獲得をしている。7・8月の団体利用についてはコロナウイルスの影響が大きかったが、家族利用を中心に土曜日の宿泊稼働率は安定してきている。</p> <p>④ インターネット予約では土曜日の予約の件数が多くなっている。平日の予約も数は多くはないが少し入ってきている。コロナ禍の影響もあるが、今後さらに増える可能性がある。フェイスブックは随時の掲載をし、インスタグラムでの広報も昨年6月より開始をした。</p>				
	<p>(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果</p>	<p>① わいわい村のコンセプト（昔生活体験、自然・環境学習体験、田畑の農作業体験）に基づき、あらゆる年齢、人数に対応したプログラムを設定</p> <p>② 安全管理を徹底した運営とサポート</p> <p>③ 畑の収穫野菜を使った簡単メニューレシピの提供による自炊食事の充実</p>	<p>① 昨年度と同様に循環型環境学習の提案をした小学校が2泊3日の生活をした。(ア)展示棟の茅葺屋根の仕組み(萱=水・湿気に強い、藁=温度調節、葦=火・熱に強い)(イ)田畑の農作業管理(土壌改良、肥料まき、耕運、畝づくり、植え付け等=わいわい村では、薪を燃やした後の灰、炭を畑にまき、土壌改良をしている)(ウ)水道水(川の水を利用。風呂や炊事で使った水は、トイレの流しとして再利用)(エ)薪での食事作りとお風呂沸かし=二酸化炭素を排出して、野山の木々が吸収→木々が酸素を排出して人間や動物が生活をしている等々を各現場で学習をしている。今年度は、利用初日に水辺の生き物観察を行い、見つけた生き物の解説や指標生物からの水環境についてや周辺生物の多様性などについて学習し、夜には都会と田舎の夜をテーマにナイトハイクを行い自然光と人工光との違いや、夜の生物観察(陸生ホタルの幼虫観察等)をわいわい村スタッフの指導で行った。家族利用も同様の説明を時間短縮で行っている。</p> <p>② 日頃よりわいわい村職員には、「安全管理、危機管理、衛生管理、施設管理、プログラム管理」を念頭に入れた指導を指示している。施設管理として7時、17時、22時に園地巡回を行い、安全管理を実施している。</p> <p>③ メニューレシピの提供には至っていないが、イベントでのファミリー野外やキッズ自然学校内で玉ねぎやジャガイモを収穫し、野外料理で活用をしたり、冬の時期には水菜や大根、白菜を収穫していただき、鍋の材料として使用している。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p> <p>・里山生活体験や水辺の生き物観察、ナイトハイクなどの学習プログラムを提供していることは評価できる。</p>	A	

	(5) 施設の維持管理の内容、的確性及び実現の程度	①施設維持管理は適切に実施されているか	<p>①安全な施設を利用者に提供 簡易上水道設備、高度処理浄化槽、高圧受電設備、防火管理、衛生管理等についての点検、維持管理</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の実施</p> <p>③防犯対策：不審者監視の強化、午前9時開門・午後5時閉門、定時の施設内巡回、職員の24時間常駐による速やかな対応</p>	<p>①上水道(1回/月)、中水道(1回/週)、受電設備(1回/2カ月)の委託業者による点検を契約している。異常が発生した場合は、随時業者による復旧作業を行っている。特に上水道については、これまで同様に業者が到着するまでは、スタッフが機械を操作できる範囲で復旧作業をしている。上水道では、年2回(8月、2023年1月)に泉南市の立入検査を受け、わいわい村職員、大阪府職員、メンテナンス業者立会いで薬剤注入や浄化機械作動関係の現状の報告をしている。上水道と中水道の点検担当者が同一人物となり、中水道の週1回の点検時にも上水道機械室の点検をほぼ毎回していただくように依頼をしている。機械室周辺の除草は、随時行っている。</p> <p>厨房内の安全衛生管理では、これまで通り4種類(業務作業時防災チェック、個人衛生チェック、作業チェック、温度湿度チェック)の管理を定時(9時、17時)に記録し、朝夕2回水質検査(残留塩素)を実施している。また厨房内への入室の際、薬用せっけんによる手洗い、アルコール消毒の徹底。宿泊棟では、業者による寝具乾燥を7月中旬に、宿泊棟内のダニほかの害虫駆除を7月中旬と11月上旬、天井他柱のカビ取りを梅雨の時期を中心に随時行い、衛生管理に努めている。12月上旬に宿泊棟、厨房等の埃、煤払い、煙突掃除の大掃除を実施した。</p> <p>火を取り扱う防火については、チェックイン時のオリエンテーションで説明をしている。</p> <p>②利用者には、感染予防対策として利用当日検温、利用同意書(3密回避、手洗い、うがい、消毒等の項目)の記入をお願いしている。宿泊棟内には、感染予防の案内と利用説明時に再度確認をしている。宿泊棟、ロビー、フロントカウンター、トイレ等不特定多数者が接触をする箇所の消毒を実施している。宿泊棟内、フロント、トイレ、食堂入口等に消毒ボトルを設置している。大阪府感染防止ステッカーの登録。</p> <p>③定時の巡回(7時、17時、22時)により、防犯安全確認として各棟の施設他、施設点検を行っている。</p> <p>※その他 保健所立ち入り検査による、宿泊棟寝具管理状況、シーツ保管状況の検査は、11月に実施され宿泊者名簿に職業欄を追加するよう指摘を受け、すぐに改善を行った。 施設の維持管理では、垣根等が朽ちており、危険な箇所については、随時補修をしている。</p>	S	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p> <p>・浄水設備や受電設備等の定期点検に加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止や防犯対策など、宿泊施設の安全性の確保に努め、適切に施設管理ができていたことは評価できる。引き続き、水道や電気等インフラ設備の正常な動作確認に努め、施設の維持管理を適正に進められたい。</p>	A	
--	---------------------------	---------------------	---	--	---	--	---	--



		②景観保全、美化清掃活動は適切に実施されているか	①景観保全 ゴミ箱設置なし、構築物の彩色配慮、除草薬剤等の不使用 ②室内美化清掃 定期的な清掃、管理について地元人材の活用やボランティア等と協力関係を強化 ③農地管理 地元農事法人や周辺地域の協力による田畑管理、農薬を削減した米栽培等	①ゴミ箱を設置せず、ゴミの削減、持ち帰りを推進している。利用者には、オリエンテーション時にその説明をしている。貼り紙については、園地内や建物(宿泊棟)には、掲示をなくし、里山の景観を維持している。しかし、今年度も、利用者の安全・安心を第一に考え宿泊棟内に「新型コロナウイルス感染防止」、キャンプ場等に「スズメバチ注意」の貼り紙をしている。園地内の除草は、草刈機で行っている。川の土手については、足元が不安定で危険はあるが、河川の保護の為除草剤を使用せず、草刈機で実施している。お米は、苗の定植後1週間以内に除草剤を散布している。(大阪府エコ農産物栽培の申請内) ②清掃・厨房管理作業は、これまで同様に地元の方の協力をいただいている。布団天日干し、害虫駆除、カビ拭き、煙突すず取り等年間計画で実施している。 ③農地管理については、スタッフと地元の方や近隣の農機具屋さんのご協力で行っている。この地域で運営をして生きていく為のよい人間関係ができていく。米栽培の農薬については、大阪府に事前に申請をし、認可を受けている「大阪府エコ農産物栽培」の範囲内で散布している。夏前に猪に水田やサツマイモ畑に侵入され、農作物が全滅をしてしまい、事後処理が夏の繁盛期や学校利用と重なり、9月下旬となってしまった。	B	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが概ね実施されているが、一部課題がある。 ・施設内の除草作業が計画どおり実施されておらず、また、スズメバチの巣の除去などの対応が遅かった。 ・農地管理が十分でなく、田植えや畑の管理が計画どおり進んでいなかった。 ・府との情報共有に努め、施設管理を適正に進められたい。	B	
I 提案の履行状況に関する項目	(6) 自主事業についての具体的手法及び期待される効果		①青少年のキャンプ活動 イングリッシュキャンプや、心に障がいを持った子ども達が集団生活できるプログラムの実施 ②高齢者の生きがいづくり 高齢者とわいわい村職員、学生ボランティアが共に活動し豊かな経験を若い世代に伝える場を展開 ③里山まつりの実施	①イングリッシュキャンプは、夏のサマースクールでの開催、検討を行ったが、講師派遣の折り合いがつかず実施できなかった。心に障がいがあるプログラムでは大阪 YMCA 表現コミュニケーションクラス生徒とプログラム実施を模索したがコロナの影響により実現できなかった。大阪府立泉南高等支援学校の職場体験実習を6月・9月の2回各5日間の日程で受け入れをした。 ②大阪府OBグループの方の協力を得て 施設管理の一部を協力していただいている。学生ボランティアとの共同活動については、わいわい村での活動内容(高齢者ボランティアは、畑作業の活動。学生ボランティアは、子どもの成長を育む活動)が異なるため、展開できていない。 ③春祭りはコロナの影響により開催できなかったが里山まつりに関しては従来のもより形を変え、ピザ作り体験・うどん作り体験の体験デイ(完全事前予約制)として開催した。合わせて37組144名の予約があったが当日の天候不順により28組96名の参加者となった。11月に泉南市商工会主催の「泉南市丸ごとフェスティバル」にバームクーヘン作り体験コーナーとして参加をした。また、2月に開催される同商会主催の町ゼミにも参加予定である。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが概ね実施されているが、一部課題がある。 ・新型コロナウイルスの影響により、実施できなかったプログラムがあることはやむを得ないが、感染状況の回復に応じたプログラムの検討や実施方法の工夫に努められたい。 ・泉南高等支援学校より生徒の受入れを実施しており評価できる。引き続き、幅広く他団体等とも連携されたい。	B	
	(7) 府施策との整合	①行政の福祉化、就職困難者の雇用・就労	①就職困難者の雇用・就労状況	① 障がい者自立支援センターに求人手続きをしたが、わいわい村への自家用車での通勤や清掃管理を含めキャンプ場での体験プログラムの現場指導等でわいわい村に適した人材が今年度も確保できていない。 ※前項目に記述した近隣の大阪府立泉南支援高校の職場体験実習を6月と9月に受け入れをした。これ以外に他の日程でも実習計画があれば受け入れの協力をさせていただくことを担当教員に伝えている。	B	履行確認の結果、支援センターへの求人には取り組まれているが、雇用の実現には至っていない。 ・通勤条件は難しいが、引き続き、就職困難者の雇用・就労を実現されたい。 ・支援高校の職場体験の受け入れについては、評価できる。	B	
		②府事業、その他公益事業への協力	① 府事業への協力状況	① 大阪府商工労働部雇用推進室より依頼があり、今年度も6月に3日間(延べ30名)あいりん地区の労働者に草刈り等の労働職場を予定していたがコロナの影響により中止となった。泉南市人権課、商工観光課、総合政策課(ふるさと納税)、観光協会他泉南市商工会イベントへの参加等地域活性等で相互協力ができ、関係を保っている。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。 ・府事業や近隣自治体との連携事業に適切に協力していることは評価できる。	A	

			<p>(泉南市プロモーションビデオ撮影への協力、泉南市丸ごとフェスタ・町ゼミへの参加等)</p> <p>大阪府関係では、ロビー他にポスター掲示やチラシ設置の協力をさせていただいている。「コロナウイルス感染防止ステッカー」の登録もさせていただいている。</p> <p>※ 泉南市、阪南市、田尻町、岬町の教育委員会他部署との関係ができています。泉南市教育委員会と協働で日帰りデイキャンプ(全4回)を実施している。毎年2月中旬から3月中旬までの1ヵ月間を日本YMCA全体で「いじめ・人権」を考える「ピンクシャツデー月間」を設けている。今年度も、泉南市人権課、地元小学校(7校)と幼稚園(2園)に「いじめ撲滅」の趣旨を説明し、市民、児童に協力を得る月間としポスターの掲示を依頼する</p>			
<p>IIさらなるサービスの向上に関する事項</p>	<p>(1)利用者満足度調査等</p>	<p>①利用者の満足度調査・アンケート等の結果のフィードバック状況</p>	<p>① アンケート結果では、「職員の対応が良い」という回答も多く今後のサービスに繋がっている。</p> <p>今年度も夏季期間扇風機の設置を行った。また、希望により、扇風機の持込の案内をしている。しかし、冬期はこれまでと同様に囲炉裏の良さを味わってもらうために、暖房器具の持ち込みはお断りしている。冬季期間は、ホットカーペットの準備をしている。施設の補修や傷みについての書き込みでは、IHについては、設置済みのものが経年劣化により故障等が多くなっており、簡易タイプのもを設置して対応している。朝食時の食材手渡しについては、傷みにくいものだけでも前夜に手渡しできるよう検討中である。食材や飲料の持ち込みについては、従来通り食中毒や給食費としての収入の減少になってしまうため、食材提供を基本とし、持ち込みは禁止としている。</p> <p>デイサービスセンターの利用やビジターで来られた障がい者施設の送迎車を園内まで乗り入れていただく対応をしている。</p>	<p>A</p>	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p> <p>・アンケート結果や利用者から要望を、サービス向上につなげていることは評価できる。</p>	<p>A</p>
	<p>(2)その他創意工夫</p>	<p>① I-(4)以外のサービス向上につながる取組み、創意工夫の実施状況</p> <p>②府民、ボランティア、NPO等の団体が事業企画などに参加・参画できる機会の確保</p> <p>③新規の団体等との協働</p>	<p>① チェックイン時間は15時となっているが、清掃作業を午前中に終了し、早く到着された利用者には、入室を早めて部屋に入らせていただいている。団体利用者にも、個人の荷物や本部備品置き場としてチェックイン時間前であっても研修棟開放のサービスをしている。また収穫季節にもよるが、畑で採れた野菜を食事の一部材料として提供している。日帰り体験利用では、家族、団体を問わず、食事作りや火起こしの指導として活動を共にしている。場所貸しの施設ではなく、利用者とスタッフが共に活動をする施設として運営をしている。</p> <p>②今年度も新型コロナウイルスの影響で祭りイベント(春まつり等)の企画が中止となり、ボランティアの参画機会がなかったが、大阪府立支援高校の現場体験実習の受け入れを2回行い生徒と共同作業を行った。また大学の実習生の受け入れとして、手塚山大学より述べ5名を受け入れ、ファミリープログラムの指導にあたった。</p> <p>③今年度はイベントの中止で各団体との協働はできていない。</p>	<p>A</p>	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが概ね実施されているが、一部課題がある。</p> <p>・利用者の視点に立った、きめ細やかなサービスを実施していることは評価できる。</p> <p>・利用者拡大に向けた新たなサービスへの取組みや、指定管理施設以外の自然公園施設等との協働を図るなど、施設運営の可能性を広げられるよう、創意工夫を期待する。</p>	<p>B</p> <p>・指定管理者が積極的にアイデアを出し、各種団体との協働による新しいイベント等を実施するなど、利用者サービスの向上に努められたい。</p>

目 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目

<p>(1) 収支計画の内容、的確性及び実現の程度</p>	<p>①当初見込んでいた収入は得られているか                  ②事業計画や前年度実績等と当年度実績とを比較、分析した結果はどうか                  ③自主事業の事例を調査し、取組可能な事例について導入を試みているかどうか                  ④経費は当初見込んだ範囲内で収まっているか                  ⑤当初提案時の支出計画書や事業計画等と実績とを比較、分析した結果はどうか</p>	<p>①夏の新型コロナウイルス第6波の影響により、16団体がキャンセルとなった。また小学校の2学期開始が早まったこともあり、8月後半の予約が減少をしている。家族利用では、土曜日などの休み前を中心に回復してきているが、当初見込んでいた収入には至っていない。                  ②上半期に保育園のお泊り保育が3園、7月上旬に3泊で中・高一貫校の利用が2年ぶりに戻ってくるなど少し回復傾向にあるが、コロナ前に比べると中学校の遠足利用が1件などコロナの影響は大きい。                  ③今年度も指定管理施設(3施設)の主催事業の合同チラシを作成し、堺市小学校の一部に配布した。8月キャンプ、12月餅つき大会、1月キャンプの参加者は堺市方面から多くの予約がある。秋の里山まつりについても事前予約制を取り入れ新たな形で実施を行った。                  ④光熱水費の値上げに伴い、スタッフ間で節電の取り組みを行っている。また給食費や物販費・消耗品費については、在庫管理、確認により削減をしている。全体的に経費削減は出来ている。                  ⑤経年劣化による小さな修繕が重なり修繕費は増加している。光熱水費も料金値上げの影響を受け増加している。団体利用の減少により、給食食材費や物販費が減少している。パートタイマーについては、1月、2月の閑散期は例年通り休職として支出削減をしている。今年度も新型コロナウイルスの影響で団体利用のキャンセルや予約の減少により収入については減少しているが、家族利用はインターネット予約が好調で随時提案により11月現在で240組の利用があった。</p>	<p>A</p>	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが概ね実施されているが、一部課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット予約を活用し、利用者拡大に努めていることは評価できるが、収支差がマイナスの運営になっているため、さらなる新規利用者の獲得に取り組み、収支の改善に努められたい。</li> </ul> <p>※12月末時点で、年間計画の利用料収入の約50%。                  R4.4~12の利用料収入合計はR3.4~12までと比較すると約122%。</p>	<p>B</p>	
<p>(2) 安定的な運営が可能となる人的能力</p>	<p>①職員体制・配置は十分か                  ②安全面についての職員の意識・スキル向上策の検討状況</p>	<p>①利用者に安心、安全、衛生面を確保するための体制を考えている。夏休みやお盆期間の繁忙期や10月以降の団体の対応でYMCA他部署に応援依頼をして安全面の配慮をしている。                  ②大阪YMCA企画の人権研修(1回)、安全研修(2回)には、業務として出席をしている。今年度も、新型コロナウイルス感染防止のため会場研修ではなく、オンライン研修として実施された。わいわい村職員には日頃より「安全管理、危機管理、衛生管理、プログラム管理、施設管理」の意識を持ち、利用者の立場に立ち、施設責任者として安全を確保すること、新型コロナウイルス感染防止対策の意識を持って業務につくことを指示している。</p>	<p>A</p>	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理体制については、適切に配置されており、職員教育も適正に実施している。</li> </ul>	<p>A</p>	
<p>(3) 安定的な運営が可能となる財政的基盤</p>	<p>①指定管理業務を受託するうえで、法人の経営状況に問題はないか</p>	<p>①全国YMCAの様々な各事業を通して連携を持った取り組みをしている。入国制限の緩和等により留学生等も戻りつつあるがキャンプ、他イベントの中止、利用者の減少等で収入に響いている。ウェルネス事業ではキャンプやクラス参加者も増え、徐々に戻りつつあるようだが、全体的には今年度も厳しい状況である。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経常収益に減が見られるが、法人本体の経営状況から現状では、指定管理業務の受託に問題はない。</li> </ul>	<p>B</p>	

年度評価 : B

最終評価 : II